

# 学校法人昭和医科大学寄附行為

## まえがき

学校法人昭和医科大学は、学校法人昭和大学がその名称を令和7年4月1日に変更したものである。

この法人の前身は、昭和3年3月17日に上條秀介ほか1名により設立された財団法人昭和医学専門学校であるが昭和21年4月25日に大学設置のためこれを財団法人昭和医科大学と改称し、更に私立学校法（昭和24年4月25日法律第270号）の制定により学校法人昭和医科大学と称し、昭和39年3月18日薬学部を設置、これに伴い昭和大学と名称を変更、昭和52年1月10日歯学部、平成13年12月20日保健医療学部の設置がなされた。

学校法人昭和医科大学寄附行為は、かかる歴史をもつ学校法人昭和医科大学の根本規範であるから、われらはその定めるところを遵守し、また創立以来の伝統である至誠の精神を基調として旧套になじまず、時流に溺れず、将来の推移を明察し、常に私学の權威を保持しつつ、この法人の自主性を確保するとともに、その公共性を昂揚するように運用の万全を期さなければならない。

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、学校法人昭和医科大学と称する。

(事務所の所在地)

第2条 この法人は、事務所を東京都品川区旗の台一丁目5番8号に置く。

## 第2章 目的および事業

(目 的)

第3条 この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする。

(設置する学校)

第4条 この法人は前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- (1) 昭和医科大学 大学院 医学研究科
  - 薬学研究科
  - 歯学研究科
  - 保健医療学研究科
- 医学部 医学科
- 薬学部 薬学科
- 歯学部 歯学科
- 保健医療学部 看護学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科
- リハビリテーション学科 理学療法学専攻
- 作業療法学専攻
- 助産学専攻科

- (2) 昭和医科大学附属看護専門学校 看護専門課程

2 この法人は、その収益を学校の経営に充てるため、平成20年文部科学省告示第141号の規定による収益事業のうち、次に掲げる事業を行う。

- (1) 不動産業
- (2) サービス業

### 第3章 機関の設置

(役員、評議員および会計監査人の設置)

第5条 この法人の役員の定員は、次の通りとする。

(1) 理 事 10名以上13名以内

(2) 監 事 3名以上4名以内

2 この法人に、評議員20名以上24名以内を置く。

3 この法人に、会計監査人1名を置く。

(理事選任機関)

第6条 この法人の理事選任機関は、評議員会とする。

2 理事選任機関の構成員は、全ての評議員とする。

3 監事は、理事選任機関に対し必要な報告を行おうとするときは、理事長に対し、理事選任機関の招集を請求することができる。この場合において、理事長は、理事選任機関を招集しなければならない。

(理 事 長)

第7条 理事長は、この法人を代表し、その職務を総理する。

2 理事のうち1名を理事長とし、理事会の決議によって選定する。理事長を解職するときも、同様とする。

3 理事長が必要と認めたときは、理事会の決議により、理事長を補佐するために副理事長を置くことができる。

4 副理事長をもって私立学校法第37条第3項の代表業務執行理事とする。

(理事の代表権の制限)

第8条 理事長および副理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長の職務の代理または代行)

第9条 理事長に事故があるときは、副理事長がその職務（寄附行為第26条第5項に定める職務を除く。）を行う。

### 第4章 理事会および理事

(理事の職務)

第10条 理事は、理事会を構成し、法令および学校法人昭和医科大学寄附行為で定めるところにより、職務を執行する。

(理事の選任)

第11条 理事は、次の各号に掲げる者で、評議員会において選任された者とし、その候補者の選出については学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則において定める。

(1) 昭和医科大学長

(2) この法人の職員のうちから選任された者 3名以上4名以内

(3) 学識経験者もしくはこの法人に功労のあった者のうちから選任された者 3名以上4名以内

(4) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25歳以上の者のうちから選任された者 3名以上4名以内

2 前項第1号の理事が昭和医科大学長の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

3 第1項第2号の理事が職員の地位を退いたときは、理事の職を失うものとする。

4 理事選任機関は、理事の総数が第5条第1項第1号に定める定員を下回ることとなるときに備えて、補欠の理事を選任することができる。

(理事の資格および構成)

第12条 理事の選任に当たっては、私立学校法第31条に規定する資格および構成に関する要件を遵守しなければならない。

(理事の報告義務)

第13条 理事長および副理事長は、3か月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

## 第5章 監事

### 第1節 選任および解任等

#### (監事の選任)

第14条 監事は、評議員会において選任された者とし、その候補者の選出については学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則において定める。

2 監事のうち1名を常勤監事とし、評議員会の決議によって選定する。常勤監事を解職するときも、同様とする。

3 第1項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任するものとする。

4 評議員会は、監事の総数が第5条第1項第2号に定める定員を下回ることとなるときに備えて、補欠の監事を選任することができる。

#### (監事の資格)

第15条 監事の選任に当たっては、私立学校法第31条第3項および第6項並びに第46条に規定する資格に関する要件を遵守しなければならない。

#### (監事の選任もしくは解任または辞任に関する手続)

第16条 理事は、監事の選任に関する議案を評議員会に提出するには、監事の過半数の同意を得なければならない。

2 監事は、理事に対し、監事の選任を評議員会の会議の目的とすることまたは監事の選任に関する議案を評議員会に提出することを請求することができる。

3 監事は、評議員会において、監事の選任もしくは解任または辞任について意見を述べることができる。

4 監事を辞任した者は、辞任後最初に招集される評議員会に出席して、辞任した旨およびその理由を述べることができる。

5 理事は、前項の者に対し、同項の評議員会を招集する旨並びにその日時および場所を通知しなければならない。

### 第2節 職務等

#### (監事の職務)

第17条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

(1) この法人の業務および財産の状況並びに理事の職務の執行の状況を監査すること。

(2) この法人の業務および財産の状況並びに理事の職務の執行の状況について、毎会計年度、監査報告を作成し、当該会計年度終了後3か月以内に理事会および評議員会に提出すること。

(3) この法人の業務もしくは財産または理事の職務の執行の状況に関し、不正な行為を発見したときや、法令もしくは学校法人昭和医科大学寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを理事会および評議員会並びに文部科学大臣に報告すること。

(4) この法人の業務もしくは財産または理事の職務の執行の状況に関し、不正が行われるおそれがあるときや、法令もしくは学校法人昭和医科大学寄附行為の重大な違反が生ずるおそれがあるときは、これを理事会および評議員会並びに文部科学大臣に報告すること。

(5) 第3号、第4号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会および評議員会の招集を請求すること。

(6) 理事会および評議員会に出席して意見を述べること。

(7) 前各号に掲げるもののほか、法令または学校法人昭和医科大学寄附行為により監事が行うこととされた職務

2 前項第5号の請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会または評議員会の日とする理事会または評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会または評議員会を招集することができる。

(調査権限等)

第18条 監事は、いつでも、理事および職員に対して事業の報告を求め、またはこの法人の業務および財産の状況の調査をすることができる。

2 監事は、その職務を行うため必要があるときは、会計監査人に対してその監査に関する報告を求めることができる。

3 監事は、理事が評議員会に提出しようとする議案、書類その他私立学校法施行規則で定めるものを調査しなければならない。

4 前項の調査の結果、法令もしくは学校法人昭和医科大学寄附行為に照らし、違反があると認めるときや著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を評議員会に報告しなければならない。

(理事の行為の差止め)

第19条 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令もしくは学校法人昭和医科大学寄附行為に違反する行為をした場合や、これらの行為をするおそれがある場合において、当該理事の行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、該当理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(役員の任期)

第20条 役員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した役員の補欠として選任された役員の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 役員は、再任されることができる。

(理事に欠員を生じた場合の措置)

第21条 理事は、第5条第1項第1号に定める定員を下回ることとなったときは、任期の満了または辞任により退任した後も、後任の理事が選任されるまでは、なお理事としての権利義務を有する。

2 理事のうち、その定数の5分の1をこえるものが欠けたときは、1か月以内に補充しなければならない。

(監事に欠員を生じた場合の措置)

第22条 監事は、第5条第1項第2号に定める定員を下回ることとなったときは、任期の満了または辞任により退任した後も、後任の監事が選任されるまでは、なお、監事としての権利義務を有する。

2 監事のうち、その定数の2分の1を超えるものが欠けたときは、1か月以内に補充しなければならない。

(役員の解任および退任)

第23条 役員が次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反したとき、または職務を怠ったとき

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があるとき、またはこれに堪えないとき

(3) 役員としてふさわしくない非行があったとき

2 役員が前項各号のいずれかに該当し、役員の職務の執行に関し不正の行為または法令もしくは学校法人昭和医科大学寄附行為に違反する重大な事実があったにもかかわらず、当該役員の解任を求める旨の議案が評議員会において否決されたときは、評議員は、当該評議員会の日から30日以内に、裁判所への訴えをもって当該役員の解任を請求することができる。

3 役員は次の事由によって退任する。

(1) 任期の満了

(2) 辞任

(3) 死亡

(理事会の構成)

第24条 理事会は、全ての理事で組織する。

(理事会の権限)

第25条 理事会は、この法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

(招集)

第26条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長以外の理事は、理事長に対し、会議の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。
- 3 理事会を招集するには、各理事および各監事に対して、会議の日時および場所ならびに会議の目的である事項を書面または電磁的方法により通知しなければならない。
- 4 理事長が、第2項の請求のあった日から5日以内に、その請求の日から2週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集の通知を発しない場合には、招集を請求した理事は理事会を招集することができる。
- 5 理事長が欠けたときまたは理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 6 第3項の通知は、会議の1週間前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。
- 7 前2項の規定にかかわらず、理事会は、理事および監事の全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

(運営)

第27条 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

- 2 前条第4項および第5項ならびに第17条第2項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

(業務の決定の委任)

第28条 法令および学校法人昭和医科大学寄附行為の規定により理事会において決定しなければならない事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(決議)

第29条 理事会の決議は、法令および学校法人昭和医科大学寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる事項の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の数の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 学校法人昭和医科大学寄附行為および学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則の変更

(2) 予算および事業計画並びに事業に関する中期的な計画の作成または変更

(3) 基本財産の処分

(4) 借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）その他予算外の新たな義務の負担または権利の放棄

(5) 残余財産の帰属者の決定

(6) 収益を目的とする事業に関する重要な事項

(7) 私立学校法施行規則に定める届出事項

- 3 前2項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる事項の決議は、理事の総数の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 理事会の決議による解散

(2) この法人の合併

- 4 理事は、書面または電磁的方法により理事会の議決に加わることができる。

(議事録)

第30条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には、議長、出席した理事のうちから互選された理事2人以上および出席した監事が署名（電磁的記録により作成される議事録にあっては、電子署名。以下第46条第2項において同じ。）または記名押印し、理事会の日から10年間、これを事務所に備えて置かなければならない。

## 第6章 評議員会および評議員

### 第1節 評議員の選任および解任等

#### (評議員会)

第31条 この法人に、評議員会を置く。評議員会は20名以上24名以内の評議員をもって組織する。

2 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

(1) この法人の職員のうちから選任された者 5名以上6名以内

(2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25歳以上の者のうちから選任された者（本学職員である者を除く。） 5名以上6名以内

(3) 学識経験者またはこの法人に功労のある者のうちから選任された者 10名以上12名以内

#### (評議員の選任)

第32条 前条第2項第1号および第2号に規定する評議員は、理事会において選任された者とし、その候補者の選出については学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則において定める。

2 前条第2項第3号に規定する評議員は、評議員会において選任された者とし、その候補者の選出については学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則において定める。

3 前条第2項第1号に規定する評議員は、職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

4 評議員会は、評議員の総数が第5条第2項に定める定員を下回ることとなるときに備えて、補欠の評議員を選任することができる。

5 評議員の選任は、評議員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮して行うものとする。

6 法令および学校法人昭和医科大学寄附行為に定めるもののほか、評議員の選任に関し必要な事項は、学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則において定める。

#### (評議員の任期)

第33条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 評議員は再任されることができる。

#### (評議員の解任および退任)

第34条 評議員が次の各号のいずれかに該当するときは、当該評議員を選任したものの決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、または職務を怠ったとき

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、またはこれに堪えないとき

(3) 評議員としてふさわしくない非行があったとき

2 評議員は、次の事由によって退任する。

(1) 任期の満了

(2) 辞任

(3) 死亡

3 評議員は、第5条第2項に定める定員を下回ることとなったときは、任期の満了または辞任により退任した後も、後任の評議員が選任されるまでは、なお、評議員としての権利義務を有する。

#### (評議員の資格)

第35条 評議員の選任に当たっては、私立学校法第31条第3項および第6項、第46条第2項および第3項並びに第62条に規定する資格および構成に関する要件を遵守しなければならない。

## 第2節 評議員会および評議員の職務等

### (評議員会の構成)

第36条 評議員会は、全ての評議員で組織する。

2 評議員会は、次の各号に掲げる事項について決議する。

- (1) 学校法人昭和医科大学寄附行為および学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則の変更
- (2) 理事会の決議による解散
- (3) この法人の合併
- (4) 私立学校法施行規則に定める届出事項

### (理事の行為の差止めの求め)

第37条 評議員会は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令もしくは学校法人昭和医科大学寄附行為に違反する行為をし、またはこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に回復することができない損害が生ずるおそれがあるときは、監事に対し、第19条の請求を行うことを求めることができる。

2 前項の場合において、当該行為によってこの法人に回復することができない損害が生ずるおそれがあるにもかかわらず、評議員会において前項の請求を行うことを監事に求める旨の決議が否決されたとき、または当該請求を行うことを監事に求める旨の評議員会の決議があった後遅滞なく当該請求その他の手続が行われなときは、評議員は、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

### (責任追及の訴えの求め)

第38条 評議員会は、役員、会計監査人または清算人が任務を怠ったことによってこの法人に損害が生じた場合には、書面または電磁的方法により、理事長（理事の責任を追及する場合には監事）に対し、役員、会計監査人または清算人の責任を追及する訴えの提起を求めることができる。

### (議長)

第39条 評議員会に、議長および副議長を置く。

2 評議員会の議長および副議長は、それぞれ評議員の互選で定める。

3 副議長は議長を補佐し、議長に事故があるときは、議長の職務を行う。

## 第3節 評議員会の運営

### (開催)

第40条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3か月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

### (招集)

第41条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の議決に基づき理事長が招集する。

2 評議員の総数の10分の1以上の評議員は、共同して、理事長に対し、評議員会の目的である事項および招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

3 評議員の総数の10分の1以上の評議員は、共同して、理事長に対し、一定の事項を評議員会の会議の目的とすることを請求することができる。この場合において、その請求は、評議員会の日の30日前までにしなければならない。

4 評議員会を招集する場合には、理事会において、次に掲げる事項を定め、評議員に対し、書面または電磁的方法（評議員の承諾を得た場合に限る。）により通知しなければならない。

(1) 会議の日時および場所

(2) 会議の目的である事項があるときは、当該事項

(3) 会議の目的である事項に係る議案（当該目的である事項が議案となるものを除く。）について、議案が確定しているときはその概要、議案が確定していないときはその旨

(4) 私立学校法施行規則で定める事項

5 前項の通知は、会議の1週間前までに発しなければならない。

(評議員による招集)

第42条 前条第2項の規定による請求があった日から30日以内の日を評議員会の日とする評議員会の招集の通知が発せられない場合には、同項の規定による請求をした評議員は、共同して、文部科学大臣の許可を得て、評議員会を招集することができる。

2 前項の評議員は、その全員の協議により、前条第4項各号に掲げる事項を定め、他の評議員に対し、書面または電磁的方法（他の評議員の承諾を得た場合に限り。）により通知しなければならない。

3 前項の通知は、会議の1週間前までに発しなければならない。

(監事による招集)

第43条 第17条第2項の規定により監事が評議員会を招集する場合には、監事は第41条第4項第1号、第2号および第4号に掲げる事項を定め、評議員に対し、書面または電磁的方法（評議員の承諾を得た場合に限り。）により通知しなければならない。

2 前項の通知は、会議の1週間前までに発しなければならない。

(招集手続の省略)

第44条 第41条、第42条および第43条の規定にかかわらず、評議員会は、評議員の全員の合意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

(決議)

第45条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の数の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 監事の解任

(2) 役員または会計監査人の職務の遂行に伴い生じた損害について、その職務の遂行が善意でかつ重大な過失がない場合、この法人に対し賠償する責任を一部免除する決議

3 前項第2号の決議を行うときは、理事長は、その決議を行う評議員会において、私立学校法第92条第2項各号に掲げる次の事項を開示しなければならない。

(1) 責任の原因となった事実および賠償の責任を負う額

(2) 前項の規定により免除することができる額の限度およびその算定の根拠

(3) 責任を免除すべき理由および免除額

4 第1項および第2項の規定にかかわらず、役員または会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任を免除する決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の全員一致をもって行わなければならない。

5 評議員は、書面または電磁的方法により評議員会の議決に加わることができる。

(議事録)

第46条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、議長、出席した評議員のうちから互選された評議員2人以上および出席した監事が署名または記名押印し、評議員会の日から10年間、これを事務所に備えて置かななければならない。

(諮問事項)

第47条 理事会は、次の各号に掲げる事項についての決定をするときは、あらかじめ評議員会の意見を聴かななければならない。

(1) 予算および事業計画並びに事業に関する中期的な計画の作成または変更

(2) 多額の借財

(3) 役員および評議員に対する報酬等（報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益および退職手当をいう。以下同じ。）の支給の基準の策定または変更

(4) 予算外の新たな義務の負担または権利の放棄

(5) 収益を目的とする事業に関する重要な事項

- (6) 寄附金品の募集に関する事項
- (7) 重要な資産の処分または譲受け
- (8) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの  
(評議員会の職務等)

第48条 評議員会は、この法人の業務もしくは財産の状況または役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、もしくはその諮問に答え、または役員から報告を徴することができる。

(役員の出席等)

第49条 理事および監事は、評議員会に出席しなければならない。

- 2 理事および監事は、評議員会において、評議員から特定の事項について説明を求められた場合には、当該事項について必要な説明をしなければならない。

(理事会および評議員会の協議)

第50条 法令または学校法人昭和医科大学寄附行為の定めるところにより理事会の決議および評議員会の決議を必要とする事項について理事会と評議員会の決議が異なる場合、理事長は、更に審議を尽くすために、当該事項を会議の目的である事項として、再度評議員会を招集することができる。

- 2 全ての理事は、前項の評議員会に出席し、前項の事項に関し改めて必要な説明を行うものとする。
- 3 評議員会は、前項の理事の説明を十分に尊重して、再度決議を行わなければならない。

## 第7章 会計監査人

### 第1節 選任および解任等

(会計監査人の選任)

第51条 会計監査人は、評議員会において選任された者とし、その候補者の選出については学校法人昭和医科大学寄附行為施行細則において定める。

(会計監査人の任期)

第52条 会計監査人の任期は、選任後1年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、その定時評議員会において別段の議決がされなかったときは、再任されたものとみなす。

(会計監査人の解任)

第53条 会計監査人が次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、または職務を怠ったとき
  - (2) 会計監査人としてふさわしくない非行があったとき
  - (3) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、またはこれに堪えないとき
- 2 監事は、会計監査人が、前項各号のいずれかに該当すると認めるときであつて、評議員会の招集を待ついとまがないときその他緊急を要するときは、監事全員の合意により、会計監査人を解任することができる。この場合、監事の互選によって定めた監事は、会計監査人を解任した旨および解任の理由を、解任後最初に招集される評議員会に報告しなければならない。

(会計監査人の選任および解任等に関する手続)

第54条 評議員会に理事会が提出する会計監査人の選任および解任並びに会計監査人を再任しないことに関する議案の内容は、監事が決定する。

- 2 前項の規定による議案の内容は、監事の過半数の合意によって決定する。
- 3 会計監査人は、会計監査人の選任、解任もしくは不再任または辞任について、評議員会に出席して意見を述べることができる。
- 4 会計監査人を辞任した者は、辞任後最初に招集される評議員会に出席して、辞任した旨およびその理由を述べることができる。
- 5 理事長は、前項の者に対し、評議員会を招集する旨並びにその日時および場所を通知しなければならない。

(会計監査人に欠員を生じた場合の措置)

第55条 会計監査人が欠けた場合において、遅滞なく会計監査人が選任されないときは、監事は、一時会計監査人の職務を行うべき者を選任しなければならない。

## 第2節 会計監査人の職務等

(会計監査人の職務等)

第56条 会計監査人は、法令で定めるところにより、この法人の計算書類(貸借対照表および収支計算書をいう。以下同じ。)およびその附属明細書並びに財産目録を監査して会計監査報告を作成し、監事および理事会に提出する。

2 会計監査人は、いつでも、次に掲げる請求をし、または理事および職員に対し、会計に関する報告を求めることができる。

(1) 会計帳簿またはこれに関する資料が書面をもって作成されているときは、当該書面または当該書面の写しの閲覧の請求

(2) 前号の書面の謄本または抄本の交付の請求

(3) 会計帳簿またはこれに関する資料が電磁的記録をもって作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を法令で定める方法により表示したものの閲覧の請求

(4) 前号の電磁的記録に記録された事項を電磁的方法であつてこの法人の定めたものにより提供することの請求またはその事項を記載した書面の交付の請求

3 会計監査人は、その職務を行うため必要があるときは、この法人の業務および財産の状況の調査をすることができる。

## 第8章 資産および会計

(資産)

第57条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第58条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産および収益事業用財産とする。

2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設および設備またはこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産および将来に基本財産に編入される財産とする。

3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産および将来に運用財産に編入される財産とする。

4 収益事業用財産は、この法人の収益を目的とする事業に必要な財産とし、財産目録中収益事業用財産の部に記載する財産および将来に収益事業用財産に編入される財産とする。

5 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産、運用財産または収益事業用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第59条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会の決議によって、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第60条 基本財産および運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、または確実な信託銀行に信託し、または確実な銀行に定期預金とし、もしくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第61条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産および積立金から生ずる運用益、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計年度)

第62条 この法人の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(会計)

第63条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

2 この法人の会計は、学校の経営に関する会計（以下「学校会計」という。）および収益事業に関する会計（以下「収益事業会計」という。）に区分するものとする。

## 第9章 予算および事業計画等

(予算、事業計画および事業に関する中期的な計画)

第64条 この法人の予算および事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会で決議しなければならない。これに変更を加えようとするときも、同様とする。

2 この法人の事業に関する中期的な計画は、5年ごとに理事長が編成し、理事会で決議しなければならない。これに変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担または権利の放棄)

第65条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、または権利の放棄をしようとするときは、理事会で決議しなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

(事業報告および決算)

第66条 この法人の事業報告および決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、かつ、第3号から第5号までの書類について会計監査人の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 計算書類
- (4) 計算書類の附属明細書
- (5) 財産目録

2 理事長は、前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号および第5号の書類の内容を定時評議員会に報告し、その意見を聴かなければならない。

3 収益事業会計の決算上生じた利益金は、その一部または全部を学校会計に繰り入れなければならない。

(財産目録等の備置きおよび閲覧等)

第67条 この法人は、毎会計年度終了後3か月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書および役員等名簿（役員および評議員の氏名および住所を記載した名簿をいう。以下第2項第1号および第4項、第76条第1項第2号において同じ。）を作成しなければならない。

2 この法人は、次の各号に掲げる書類を事務所に備えて置かなければならない。

- (1) 前条第1項各号の書類および役員等名簿
- (2) 監査報告および会計監査報告
- (3) 役員および評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 学校法人昭和医科大学寄附行為

3 前項各号に掲げる書類の閲覧、それらの謄本もしくは抄本の交付について、この法人の設置する学校に在学する者その他の利害関係から請求があった場合、この法人は、正当な理由がある場合を除いて、これに応じなければならない。

4 前項の規定に基づき、役員等名簿の閲覧や、その謄本もしくは抄本の交付について、評議員以外の者から請求があった場合、この法人は、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除外して、その請求に応じることができる。

(役員および評議員の報酬)

第68条 役員および評議員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

2 会計監査人に対する報酬等は、監事の過半数の同意を得て、理事会において定める。

(資産総額の変更登記)

第69条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後3か月以内に登記しなければならない。

(理事会による責任の免除)

第70条 役員または会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員または会計監査人が賠償の責任を負う額から私立学校法第92条の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

2 理事は、前項の規定に基づく責任の免除(理事の責任の免除に限る。)に関する議案を理事会に提出するには、各監事の同意を得なければならない。

3 第1項の決議を行ったときは、理事長は、遅滞なく、私立学校法第92条第2項各号に掲げる次の事項および責任を免除することに異議がある場合には1か月以内に当該異議を述べるべき旨を評議員に通知しなければならない。

(1) 責任の原因となった事実および賠償の責任を負う額

(2) 前項の規定により免除することができる額の限度およびその算定の根拠

(3) 責任を免除すべき理由および免除額

4 評議員の総数の10分の1以上の評議員が前項の期間内に同項の異議を述べたときは、第1項の規定に基づく責任の免除をしてはならない。

5 第1項の決議があった場合において、当該決議後に同項の役員または会計監査人に対し退職慰労金その他の私立学校法施行規則で定める財産上の利益を与えるときは、評議員会の決議による承認を受けなければならない。

## 第10章 解散および合併

(解散)

第71条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

(1) 理事会の決議および評議員会の決議による決定

(2) この法人の目的たる事業の成功の不能

(3) 合併

(4) 破産手続開始の決定

(5) 文部科学大臣の解散命令

2 前項第1号または第2号に掲げる事由による解散は、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第72条 この法人が解散した場合(合併または破産手続開始の決定によって解散した場合を除く。)における残余財産は、解散のときにおける理事会の決議により選定した学校法人または教育の事業を行う公益社団法人もしくは公益財団法人に帰属する。

(合併)

第73条 この法人が合併しようとするときは、理事会の決議および評議員会の決議を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

(寄附行為の変更)

第74条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会の決議および評議員会の決議を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、私立学校法施行規則に定める届出事項については、理事会の決議および評議員会の決議を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

第11章 補則

(公告の方法)

第75条 この法人の公告は、この法人のホームページに掲載する方法により行う。

(情報の公表)

第76条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。

- (1) 学校法人昭和医科大学寄附行為変更の認可を受けたとき、または学校法人昭和医科大学寄附行為変更の届出をしたとき 学校法人昭和医科大学寄附行為の内容
- (2) 計算書類および事業報告書並びにこれらの附属明細書、監査報告、会計監査報告、財産目録、役員等名簿（個人の住所に係る記載の部分を除く。）並びに役員および評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類を作成したとき これらの書類の内容

(施行細則)

第77条 学校法人昭和医科大学寄附行為の施行についての細則その他この法人およびこの法人の設置する学校の管理および運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

第78条 学校法人昭和医科大学寄附行為に特別の規定のない事項は私立学校法の規定による。

附 則

1. この寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成3年8月9日）から施行する。
2. この変更寄附行為は、平成6年4月1日から施行する。
3. この変更寄附行為は、平成7年7月24日から施行する。
4. この変更寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成8年12月19日）から施行する。
5. この変更寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成13年2月14日）から施行する。
6. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成13年12月20日）から施行する。
7. この変更寄附行為は、平成16年4月1日から施行する。
8. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成17年5月30日）から施行する。
9. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成17年8月30日）から施行する。
10. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成18年1月20日）から施行する。
11. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成18年5月26日）から施行する。
12. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成18年11月30日）から施行する。
13. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成21年9月9日）から施行する。
14. この変更寄附行為は、平成22年4月1日から施行する。
15. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成23年8月24日）から施行する。
16. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成23年10月26日）から施行する。
17. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成28年8月29日）から施行する。
18. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（令和元年11月15日）から施行する。
19. 令和2年2月3日文部科学大臣認可のこの変更寄附行為は、令和2年4月1日から施行する。
20. この変更寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（令和2年5月26日）から施行する。
21. この変更寄附行為は、令和5年4月1日から施行する。
22. この変更寄附行為は、令和7年4月1日から施行する。

23. 令和 6 年 7 月 5 日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。
24. 令和 7 年 1 月 24 日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。
25. この寄附行為の施行の際現に在任する役員および評議員の定数、資格および構成については、令和 7 年度最初の定時評議員会終結の時までは、なお従前の例による。
26. この寄附行為施行の際、現に在任する役員および評議員の任期は、令和 7 年度最初の定時評議員会終結の時までとする。